

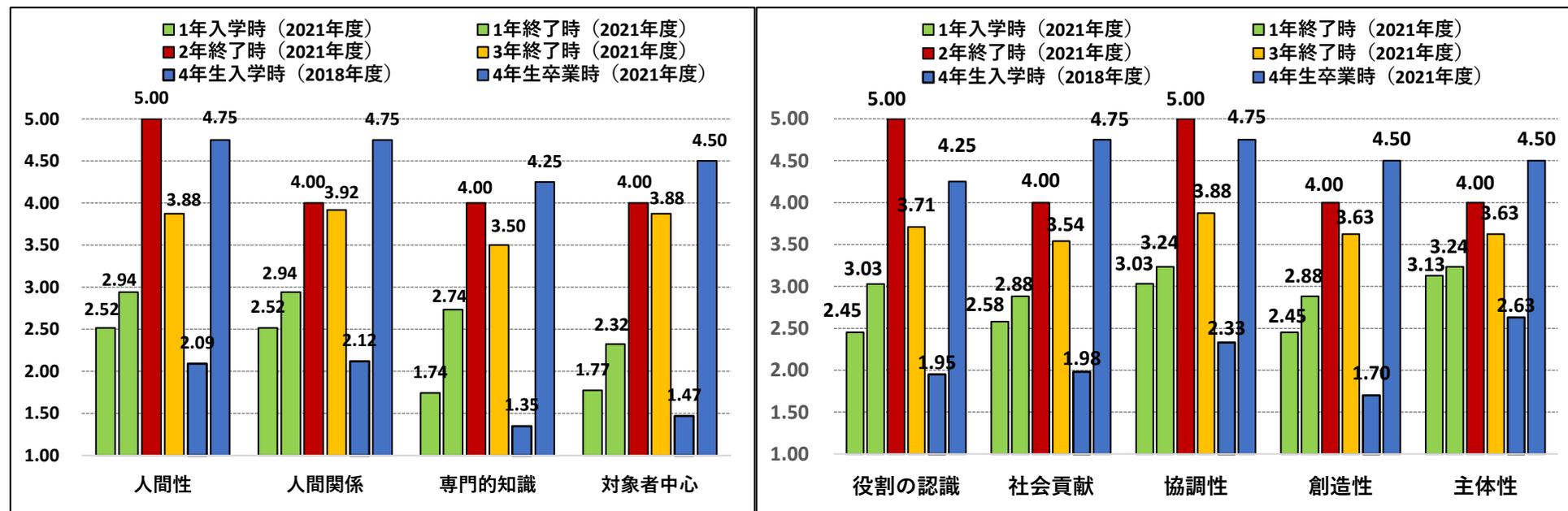
2021年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 31名（77.5%）、終了時 34名（85.0%）、2年終了時 1名（2.6%）、3年終了時 24名（68.6%）、4年終了時 4名（9.8%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：1年生の入学時と終了時では、全項目において上昇していた。特に専門的知識が0.99ポイントの上昇と顕著であった。前年度はCOVID-19感染拡大による影響や入学時の回答時期が遅れたため1年次の変化がなかったが、それが改善した。2年次以降は、2年生と4年生の回答が少ないため正確な分析は難しいが、全ての項目で1年次より3・4年次で上昇していた。これらのことから、前年度と同様に学位授与の方針は、各学年の学内授業および臨床実習を経験する中で適切に反映されているものと判断した。
- ・4年生の入学時（2018年度）と卒業時（2021年度）の比較：入学時と卒業時の変化をみると、全ての項目において大きく伸びていることがうかがわれた（1.87～3.03ポイントの上昇）。特に4年間で対象者中心（+3.03）、専門的知識（+2.90）、創造性（+2.80）での成長が著しかった。



理学療法学専攻

- **分析対象の内訳**：1年入学時 36名（91.0%）、3年終了時 20名（41.7%）、4年終了時 36名（85.7%）、2年次の回収率は0%であり、アンケートの回収率は低調に終わった。
- **学年推移による比較の概要および前年度との比較**：1年生においては入学直後であるため、応用的知識、実践力、論理的思考力、問題解決能力が低値を示している。その後、上位学年に進むにつれて各項目において確実にステップアップしていることが確認された。また、各項目の伸び率について応用的知識、実践力および理論的思考力は、3年生から4年生よりも1年生から3年生について高く、学内授業で得た知識や技術を臨床実習を経験することによって身についたことが考えられた。
- **4年生の入学時（2018年度）と卒業時（2021年度）の比較**：入学時と卒業時の変化をみると、すべての項目において大きく伸びていることが伺われる（+1.77～+3.15ポイントの上昇）。4年間を通じ実施された学内外での学修機会、特に臨床実習により実践力（+3.15）、応用的知識（+2.56）、問題解決能力（+2.47）、倫理的思考力（+2.42）、での成長が著しく、臨床で働く専門職として重要な知識と技術が培われたものと思われる。

